

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 4 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471501266		
法人名	特定非営利活動法人 ほんまち平安の家		
事業所名	グループホームほんまち平安の家		
所在地	広島県福山市丸之内二丁目5番6号		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年2月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念「個を大切に、ゆったりとした居心地の良い暮らしをさりげなく支援する」に基づいて、環境づくり、言葉がけなど十分に注意し、職員全体で実施するように取り組んでいる。又、お年寄りさんの高齢化もあり体調変化の早期発見、家族、主治医との密な連絡を行い、その時々細かな対応に努めている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームほんまち平安の家（以下、ホーム）は、福山駅の北側に位置し、閑静な住宅地の一角にあります。木造2階建てで、その趣は近隣の住宅に溶け込んでいます。本来グループホームの定員は9人ですが、あえて8人とし、よりきめ細かな支援ができるよう体制を整えられています。役員と職員は、創立者の遺志を受け継いだ運営を常に心に留め、認識を一つにするために連携を深める努力をされています。食事に関しては、介護職員とは別に調理担当の職員を配置し、素材から調理法まで気を配り、入居者に満足してもらえるよう工夫されています。「個を大切に、ゆったりとした居心地のよい暮らしをさりげなく支援する」という理念を粛々と実践されています。運営がNPO法人であるため、地域とのつながりが深く、ボランティアや学生、地域住民の出入りも多く、協力関係が築かれています。また、地域の集いの場にもなっています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関など良く見える所へ掲示している。事業所の理念の中に地域サービスが盛り込まれており、施設の開放など、実践している。GHの理念は、ミーティング時唱和し、少しでも近づけるように心がけている。	理念は、ホーム開設3年目に創立者の遺志を受け継ぎ、理事と職員とで作成されたものです。年に1回「偲ぶ会」を開き、創立者の思いを受け継ぐ努力をされています。職員は、ミーティング時の唱和や、カンファレンスの時に理念に基づいた支援を議論し、共有されています。また、玄関に掲示したり、情報誌に掲載したりして、周知を図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	町内会の行事(敬老会、文化祭など)作業にもこまめに参加している。又、散歩などの外出時、挨拶などするよう心がけている。地域の方がボランティアとして定期的に来訪してくださっている。	自治会に加入し、町内の行事に積極的に参加されています。ホームは、設立準備の時から地域住民が集まる場所として提供され、開所後も近隣住民が囲碁をさしに来られるなど、ボランティアが多く出入りされています。地元の入居者が多く、地域とつながりながら暮らせることのできる環境です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の高齢者を対象に、囲碁サークルや文化祭、夏祭りなどを開催し、訪問してくださっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で報告はしているが、出席人数が多い事もあり、自由な意見が出ない為、アンケートなどの実施や呼びかけを行っているが不十分である。しかし定期的な運営推進会議の開催と、内容の充実につながっている。	運営推進会議は、2か月に1回、夜に開催されています。参加者は家族、自治会、民生委員児童委員、地域包括支援センター、市担当者、理事等の、30人で構成されています。会議では、活動報告と、消防、防犯、口腔ケア、薬などをテーマにした、講座が毎回設定されています。また、アンケートによる意見収集に取り組みられ、会議の運営に役立てておられます。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議では連絡をし、又、市担当者にわからない所など相談している。	施設整備に関することや入居者に関する事などについて、介護保険課、生活福祉課と常に情報交換をし、協力関係を築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ミーティング時、職員全体で再確認すると共に、実践に取り組んでいる。またそれに伴い家族への説明をこまめに行っている。</p>	<p>入居時に入居者および家族に対して、身体拘束排除の理念及び方針を説明し、「入居時リスク説明書」に同意を得られています。研修やカンファレンス時に、拘束しない取り組みについて話し合い、支援の方法を共有されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ミーティング時に、職員全体で再確認すると共に、職員同士声を掛け合い、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修に参加し、報告書、資料を読んでもらっているが、実際に活用できるような支援はできていない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容を十分説明すると共に、ゆっくり話をする時間を設けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する入居者、家族等意見の反映</p> <p>入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃の会話、様子から入居者の意見などを聞き、家族の面会時、意見要望があれば申し送りなどで報告し、話し合っている。又、玄関に投書箱を設置し、ミーティングや連絡帳で職員に伝え、考えてもらっている。</p>	<p>入居者や家族の意見や要望は生活記録に残し、職員間で共有されています。ホームの近くに住む家族が多く頻回に面会があります。行事への参加率も高いので、意見を聞く機会も多く情報交換しやすい関係が築かれています。出された意見は支援に反映されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングや申し送りなど、意見を聞く機会を設けたり、改善のアンケートを書いてもらいその意見の内容から話し合い、実施している。必要ならば、理事会へも意見提出を行っている。</p>	<p>個別アンケートをもとに管理者と職員が話し合い、業務改善が行われます。必要な事項については理事会に提案して、職員の意見を反映させるよう努められています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員個々の要望に合わせて勤務表を作成し、又、職員一人ひとりから出た意見を取り上げ改善に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部の講習会、研修会を積極的に受講してもらい報告書を出してもらっている。内部研修も定期的に行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>全国認知症グループホーム協会などに所属し、又、研修を通じ、情報交換に努めている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接をしっかりと、その情報を全職員に共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用に至るまでの間も電話確認等で、話を聞く機会を作っているが回数が少ない		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居する前に体験期間を設け、家族、前ケアマネとも相談し、本人が出来るだけ混乱せず安心して入居できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、要望、思いなどをよく聞き、その答えによって要望に出来る限り答えるようにしている。しかし高齢化、重度化が進み、介護をして差し上げるのみになっている部分もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、近況報告の手紙をお渡ししている。面会時にはコミュニケーションをしっかりと、また、体調などの変化があるときはこまめに電話連絡すると共にお願いできる事はお願している。全員ではないが、定期的に食事介助などして下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩やドライブで馴染みの場所へ行ったり、馴染みの人と話しやすい場面作りをしている。	入居者にとってホームのある地域は、これまで生活してきた場所です。近くの神社や商店など、馴染みの場所への散歩を楽しまれています。散歩の途中に知人と出会うことも多く、話ができる良い機会となっています。会話の中から把握した思い出の場所へもドライブに出かけられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○入居者同士の関係の支援</p> <p>入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	御本人の希望や、入居者の性格や特徴などから、日中過ごされる座席を決め、雰囲気、環境づくりに努めている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	時に訪問したり、訪問されたりしている。入居者が近所の方が数人おり、外出中に会うと、話などしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	会話や動作の中から本人の意向引き出し、皆で検討している。ケアカンファレンスを通じて把握に努めている。	日常会話から出た言葉を集め、それをもとに家族の意見を聞かれています。家族の意見は、その都度ミーティングで報告し、入居者の思いや願いを職員間で共有されています。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	経過記録、個人ファイルを充実させると共に、本人、ご家族から情報を得て皆で共有している。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	日々の記録を詳細にし、申し送り、記録で伝えることにより細かな対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画作成担当者を中心に入居者ごとに担当を決め、ミーティングやカンファレンスで話し合い、それを基に家族へ伝え、介護計画を作成している。</p>	<p>入居者ごとに担当者を決められています。担当者はアセスメント要約書を作成し、計画作成担当者がそれをもとに介護計画を作成されています。作成した介護計画は、ミーティングやカンファレンスで話し合い、家族に了承を得て実施されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人の経過記録をしっかりと記入し、出勤後すぐ確認し、業務にあたっている。ミーティング、ケアカンファレンスなどで話し合い、変更があれば介護計画をその度見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>デイサービス、また、ショートで状態要望に応じた対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>緊急連絡先に警察に登録させてもらったり、消防との密な連携や民生委員、公民館、ボランティア、地域の方などの協力を得ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>同意の上で、西谷内科と医療連携の契約を結んでいる。又、かかりつけ医が理事をされていて、連絡が行きやすく速やかに適切な医療が受けられている。</p>	<p>定期的な往診はなく、通院受診が基本です。これまでのかかりつけ医の受診を希望される場合は対応する体制です。受診は家族対応を原則としています。家族の都合が悪い時には職員が同行して受診を支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>当ホームの看護職員と西谷内科の看護師が常に健康管理をしている。生活記録に医療の欄を設け、情報を共有、対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>入居者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>かかりつけ医や家族の意向に沿って入院先を決定している。また、入院中も訪問し、本人、家族と連絡をとり、病院側からも情報を得ている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期については、契約時、又状況に応じて繰り返し家族、かかりつけ医と話し合いをしている。</p>	<p>延命治療の有無について、毎年本人や家族に確認されています。最期は家族に看取ってもらいたいという思いを受け止め、支援方法を職員間で話し合い、対応されています。看取り経験はこれまでに2件あり、現在も重度化した入居者を支援されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、毎月ミーティングで報告、話し合っている。また、定期的な訓練は行っていないが常に話し合い、情報を共有している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練は定期的に行っており地域の方々の協力は得られている。各部屋、廊下にスプリンクラーの設置が完了した。</p>	<p>想定される災害は地震と火災です。避難訓練は火災を想定したものを実施されています。地域の防災訓練にも参加し、協力関係を築かれています。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけなど時に不用意な発言がある と、その都度、また、ミーティングの時に注意、改善方法を話し合っている。	特に言葉かけに注意されています。例えば、優しい声で、無理強いをしない、その人にあった言葉遣い、言葉が困難な入居者には選択肢を出して決めてもらうなどです。不適切と気づいた時は、職員間で相互に注意し合える関係があり、日々の暮らしを楽しく過ごせるよう支援されています。	
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	しっかり言葉かけを行い、待つ姿勢を持つように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	睡眠状態や体調の確認など申し送りで細かく行い、その都度声かけを行い要望を聞いて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみには気をつけており、自らが選ばれた服を着ていただくようにしている。しかし、自己決定されない方もおられ、その方に対しては、本人の望むものになっているかは不十分である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	会話の中から希望の食事などがあると、沿うように細かなメニュー変更をしている。食べる意欲が出るような声かけや介護に心がけている。又、様子を伺いながら料理、片付けへも参加して頂いている。	創設者の思いを受け継ぎ、調理担当の専任職員を配置されています。献立は職員が立てますが、調理方法や形態などについては話し合いながら工夫されています。また、パンのバイキングやお弁当を買いに行くなど、食を楽しめるよう工夫されています。食事の準備や片付けも入居者の状況を見ながら声かけし、一緒にされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々に合わせて食器を、好み、大きさ、色、形状などから選んでいる。食事量、水分量など、体重、体調に合わせて摂取している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアは実施しており、口腔内のトラブルがあれば歯科医へ往診、受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個人の排泄パターンを把握し、できる限りトイレでの排泄を実施している。入居者の重度化もあり、トイレでの排泄は時として難しくなっているが、陰部清拭や、個々によってパットの大きさも変え、その時々で対応している。</p>	<p>排泄パターンを把握し、トイレ誘導をさせています。リハビリパンツから布パンツになった入居者もおられます。トイレへの移動が負担になる入居者は、清拭などで対応されています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>こまめに水分を摂ってもらい、また、食事の内容に気をつけ身体を動かしてもらうように努めている。薬に頼りすぎず、ヨーグルトや牛乳などを摂ってもらっている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>曜日や時間帯はほぼ決まっているが希望があれば変更し、無理強いを決してしないようにしている。また、色々な種類の入浴剤を使用し、視覚にも臭覚にも楽しんでもらっている。</p>	<p>入浴は、基本的に週2～3回の午後入浴です。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯など利用し、季節の暦を大切にされています。入浴を好まない入居者は、時間をあけて声かけしたり、次の日に変更したり、着替えや陰部洗浄で対応したりするなど、臨機応変に支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>時々の状況をふまえ、個人の状態を考えながら自由に横になってもらっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人の服薬情報をカルテにきちんと記録している。また、変化のある時も同様に行っている。内服時、誤薬がない様2～3度の確認を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者の方が高齢の方が多く、楽しめる内容に限られてきているが、仲間意識が持てるよう、席選びや部屋割りを行い、出来るだけ希望に沿っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>買い物や散歩など近所への外出は定期的に行っているが、入居者の高齢化、体調により、外出をおっくうがられ不十分である。</p>	<p>入居者のその日の様子を見ながら、買い物や散歩へ出かける声かけをし、職員と一緒に行かれます。入居者にとって馴染みの場所なので、近隣住民に道で会えば声かけしてもらい、見守りの関係が築かれています。入居者の希望があれば、気持ちに寄り添いながら外出を支援されています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>希望があればお金の所持や使うことを支援しているが、希望が少ない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状、手紙、電話のやりとりを行っている。来訪することが出来ない方は、家族の承諾を得て、知人へ写真なども送付している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音、光、臭いに敏感な方が多く十分気をつけている。又、入居者の方々が作られた作品の展示や季節の花、飾りで飾っている。座る席やソファなどの配置もその時々に合わせて変化している。	共用空間は日当たりがよく、壁面には入居者の作品や行事写真を掲示し、季節の花が飾られ、季節感のある空間になっています。入居者全員で囲める大きなテーブルがあり、お互いの顔を合わせて皆で会話ができるよう配慮されています。温かな雰囲気の中で、日中はほとんどの入居者が共用空間で過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子やテーブルの位置など工夫している。狭いため、一人でゆっくり出来る場所が少ないが、いつもと違う椅子に職員と座ってテレビや編み物など、ゆったりと過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	町の中にあるため居室が狭く、好みの居室にはなっていないが、使われていた物などを置き、居心地よく過ごせるよう職員が気を配っている。	ベッド・整理ダンスは備えつけです。家族や職員が協力して、それぞれ好みに応じた配置にされています。ぬいぐるみや写真を持ち込まれている入居者もいます。壁には自作の作品を飾り、その人らしい部屋になるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	設計の段階から十分に配慮されており、混乱などあればあすぐに対応している。照明、配置など気をつけている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほんまち平安の家

作成日 平成 25 年 4 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域の人と協力した消防訓練ができていない。	1年に1回は地域の人に協力してもらい、消防訓練を行う。	運営推進会議で話し合いを行い、地域の人へ理解して頂き、協力を得る。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。